

平成 23 年度 農業農村工学会 資源循環研究部会 講演会・研究発表会を開催しました

(社)地域環境資源センターが事務局を務める(社)農業農村工学会 資源循環研究部会の講演会・研究発表会が平成 23 年 10 月 20 日に東京ビッグサイトにて開催されました。本会は、農村における水の循環やバイオマスの利活用にかかる技術の研究・開発の推進、部会員間の学術交流を目的に開催されるもので、今年で第 9 回となります。

本年度は、農林水産省農村振興局の佐藤毅課長補佐に「農業集落排水を巡る情勢」、九州大学大学院農学研究院の凌祥之教授に「バイオマス利活用を巡る情勢」ということで基調講演を行っていただきました。続く事例報告では、大成建設(株) 帆秋利洋さんに「水産加工残渣のメタン発酵で生じるアンモニア阻害の回避技術」、(社)地域環境資源センター 佐藤進さんに「集落排水処理施設における省エネ運転手法の事例報告」、日鉄環境エンジニアリング(株) 山本 一郎さんに「汚泥減量装置の集落排水処理設備への適用」の報告をいただきました。

研究発表会では、「集落排水処理と汚泥・処理水の再利用」及び「メタン発酵・液肥利用と評価」の 2 セッションを設け、合計 8 件の発表がありました。研究発表会終了後には、研究部会幹事による審査が行われ、最優秀の発表課題には資源循環研究部会長賞が授与されました。

本年度の部会長賞として、「浄化槽三次処理と面源負荷処理を目的としたハイブリッド伏流式人工湿地の初期性能」が選定され、凌部会長から発表者の井上京さんに賞状と副賞が手渡されました。

